

学校通信

学校生活における大切なお知らせです

2024 NOV.

第 258 号

学校長からのメッセージ

先月、今年 2 回目の「健康の集い」を行いました。参加は自由で「心身に不安がある」「メンタルヘルスに興味がある」などの生徒と保護者を対象とした“集い”です。特に医療的なことではなく、私たちは、この集いが“誰かとつながる場”になることを願って行いました。

◆私は前の部署「ウエルネス」にいた時、子どもサッカー大会の「説明会」に参加することがありました。当時 YMCA にもサッカーチームがあり、大会に出るためには説明会に参加しなければなりません。その日、担当者の都合がつかず私が行くことになったのです。会場の大ホールは、サッカーコーチらしき真っ黒に日焼けしたジャージ姿の男性ばかりでした。誰かが私に嫌なことを言うわけでもなく、ジロジロ見るわけでもなかったのですが、私には居心地が悪く、その場にいること自体が息苦しくて、早く終わることばかり考えていました。

そんなにつらかったのですが、翌年も行かざるを得なくなりました。その日、重い気持ちで会場に着くと、頭の中では“参加しないといけない”と思っているのに身体が固まり、一歩が出ない。身体が完全に拒否して、どうしても会場に入ることができませんでした。その経験から、生徒の皆さんから「中学には居場所がなかった」「玄関で身体が動かなくなった」と聞くと、そのつらさが沁みます。

◆自分が安心でき、それぞれ居場所を見つけしてほしい。そのために学校はいくつかの場を用意しています。「健康の集い」もその一つで、親同士、生徒同士が語り合う場としています。生徒の皆さんからは「不安でいっぱいだったけど卒業生の話聞いてすごく勇気をもらえ前向きになった」「苦しいのに“怠けてる”と思われてつらかったけど理解してもらえた」。保護者からは「『なんとでもなる』との言葉に救われた」「自分だけじゃないと思った」「同じような悩みを持つ親同士の交流は最高の時間です」との感想がありました。

YMCA のスローガン「みつかる つながる よくなっていく」のように、これからも皆さんが「つながれる」場を創造し、安心できる場を提供したいと思います。

(校長 鍛冶田 千文)

わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。

(ヨハネによる福音書 15 章 5 節)





今月の聖句

「主よ、あなたの僕たちが、思い切って大胆に御言葉を語る事ができるようにしてください。どうか、御手を伸ばし聖なる僕イエスの名によって、病気がいやされ、しるしと不思議な業が行われるようにしてください。」

(使徒言行録 4 章 29～30 節)

聖書の中には、沢山の祈りの言葉が記されています。生まれて間もないキリスト教会の中で、仲間のために神さまに捧げられていた祈りを見ることができます。そこにあるのは、いずれも本気の祈りです。仲間のために、本気で心を配ったのです。その祈りは一度ではなく、朝も昼も晩も、祈りの度に、仲間のことを覚えて、神さまの祝福と支えがあるように祈る。またそれは、ただ祈るだけでなく、具体的に支えの為に働くことも含まれています。つまり、お祈りをするということは、その相手とこれからも、祈りを通じて関わりを持っていく、覚え続けるということの意味しているのです。

お祈りの重みが分かってくると、私たちは安易に「お祈りしています」と言うことができなくなります。しかし、本当に祈り合う関係を与えられるならば、それは、本当に幸いなことです。

皆さんが経験される出会いの中で、嬉しいことも困難なことも様々なものが生じてくるでしょう。その歩みの中で、隣人のために「祈る」、そして隣人(仲間・同僚)から「祈ってもらおう」、この「祈り合う」関わりを、是非皆さんに持っていただきたいと心から願います。大阪 YMCA のお働きの上に、神さまの祝福が豊かにありますように!

(藤川義人牧師 日本基督教団奈良高畑教会)

